

おおみ

理念

私たちは、地域に密着した病院として、他の医療機関や関係の方々との密接な連携のもと、安全で心の通った医療・保健・福祉サービスを提供し、患者さんや地域の皆さんから信頼され選ばれる病院を目指します。

安全・信頼・連携・地域密着

「信頼され、選ばれる病院を目指して」



新年の御挨拶

医療法人 正観会 御野場病院 院長 三浦 邦夫

明けましておめでとうございます。年頭に於たって御挨拶及びご報告をさせていただきます。当院は昨年の10月16日から3日間、日本病院機能評価機構による審査を受けました。病院機能評価は、第三者に病院を外から見てもらい自分たちが提供している医療が妥当なのかを評価してもらうために行われています。御野場病院では3年程前から受けようという機運が高まり、1年前から寺田副院長を委員長として機能評価受診委員会を立ち上げ、受審の準備をまいりました。機能評価に合格すると認定証が交付され、公に認められた病院ということになります。患者さんのプライバシーと感染予防に配慮し安全な医療を行ってれば当然認定されます。しかし自分ではよいと思っていることでも、周りから見ると十分ではないと判断されます。たとえば、感染性廃棄物が医療者以外の目に触れないかということですが、もし誰かが感染性廃棄物である使用済みの注射針を振り回したらどうなるかなど我々が考えも及ばないことですが、言われてみれば確かにそうです。そのため、膨大なチェックリストを基に、点検し、改善し、これまで、何となくやってきたことはきちんと

マニュアル化し、膨大な書類にまとめました。病棟の床をピカピカに磨き、4人のサーベイヤーを迎えました。

1日目は理事長の病院概要のプレゼンテーションに始まり、書類審査で終わりました。2日目は合同の面接、診療各部の領域別面接が行われ、職員一同、サーベイヤーの鋭い質問に答えました。午後は特殊疾患病棟の2B病棟とリハビリ病棟の2A病棟での医師、看護師に対するカルテや現場を見ての審査が行われました。最終日は公表が行われ、良い印象を持ってサーベイヤーは帰ったと思います。

ところで、機能評価を受けたことで職種間でのコミュニケーションがよくなったように思います。また一つの目標に向かってみんなが団結したようにも思います。注射のオーダーセット制や職員手帳など機能評価を期に出来たものもあります。機能評価が終わってもこれを継続していきたいと思います。良い結果が出るのを心待ちにしています。

今年も「安心」「信頼」「連携」「地域密着」の理念の元、一生懸命努めてまいりたいと思います。どうぞよろしくお願い致します。





新年明けまして
おめでとうございます。

今年の干支は辰であるが、私は72歳の年男である。できれば「竜」の如き勢いをもったよい年にしたいものと思っている。

昨年は日本国の試練のはじまりの年であった。3・11の未曾有の 東日本大震災、奈良・和歌山地方を始め各地で発生した大洪水などに被災された多くの方々、そして不幸にもお亡くなりになったり、今だに行方の分からない方々に心からのお見舞いとお悔やみを申し上げたい。そして福島原発事故では未だ多くの方々が故郷に帰りたいけれども帰れないでおり、苦しみが続いている。復興、復旧の手立てを政治、行政は一刻も一日も早く立案し実行されることを切に 願うばかりである。

昨年当院としても、この機会に危機管理の見直しを行ったが、いつ起るか分からないのが災害であり油断のないように心を引き締めてゆきたい。

昨年は医療法人正観会としては三つの大きなことがあった。

一つ目は、三浦邦夫新院長を招聘したことである。このことについては広報誌「なおり」創刊号で述べているので割愛する。

二つ目は御野場病院が日本病院機能評価機構の審査を受けたことであるが、これも院長が述べることと思うので割愛するが、一丸となって頑張ってくれた職員に改めてお疲れさまでしたと申し上げたい。

三つ目は院内保育所「すまいる保育園」を開所したことである。

後の二つは小林初代理事長の頃から懸案となっていたことである。時代の要請、流れということもあって、なんとかそれに漕ぎ着けることができた。

院内保育所「すまいる保育園」（職員からの公募による命名）は、昨年8月1日在宅ケアセンターの2階を改修して開所した。

数年前から保育所、幼稚園の全国的な不足が社会問題となり、保育所設置と運営に関わる費用について公的支援が受けられることに

なった。

このことなども追い風となり、職員の職場環境改善の一環として保育所設置に踏み切った。園の運営には「あおぞら保育園」の全面的な支援を受けることとした。

院内保育所の事業費の概要についてかい摘んで述べる。

開設時経費

① 改修工事費	11,546 千円
② 助 成 金	4,880 千円
	(震災の影響で減額)
③ 備品購入費	3,417 千円
合 計	10,084 千円 (持ち出し)

年間運営費 (平成23年度)

① 人 件 費	10,095 千円
② 事 業 費	2,362 千円
③ 保 育 料	990 千円
④ 助 成 金	846 千円
合 計	10,621 千円 (持ち出し)

平成24年度の年間運営費は保育児10名として助成金5,798千円を入れても8,941千円の持ち出しとなる予想である。当医療法人の財政規模からすれば大きな負担である。職員皆のご理解とご支援を願いたい。

私は時折「すまいる保育園」に出向いているが、その頃は生憎こども達のお昼寝の時間帯であることが多いが、時には一緒に「おままごと」をして遊ぶこともある。この幼子たちの愛らしい寝顔や笑顔を見ていると、心が和み癒されてなんとも言えない良い気持ちになる。このこども達が健やかに育ち、将来の郷土や日本を背負ってくれることを願い、保育所の経営は厳しいが開設して本当によかったと改めて思っている。

さて平成24年度は、診療報酬と介護報酬の同時改訂が施行される。医療と介護の一体化の考え方で摸索されている。予算の配分にはメリハリがあるだろうが全体としてはプラス改訂とはならないであろう。当法人は医療と介護を担っているのでその影響は大きい。まだ情報量が少ないので対応に苦慮しているが、現時点で考えられる対応策を検討しているところである。

ともあれ皆で力を合わせてこの難局を乗り越えて良い年になるようにしようではありませんか。



■リハビリテーション科医として

「とかげのしっぽ」に思う。



リハビリテーション科
リハビリテーション専門医
三浦 忠俊

一般社会においては「とかげのしっぽ切り」と言う様にあまり良い意味では使用されない言葉だが、機能障害、とりわけ事故等による四肢の切断や脳卒中等の中枢神経損傷により、上下肢の運動が困難な者にとっては特別な意味合いを含む言葉である。朝起きたら、無くなっていた手足または動かなかった指が元通り動く様になっているのである。上下肢の機能障害を有した場合、誰でも一度は「とかげのしっぽ」を思い描くであろう事は想像できる。今日、幹細胞移植による再生医療が進展する中で、満更不可能でもない「とかげのしっぽ」に潜在意識は刺激される。しかし、リハビリテーションに携わる者としては、その事象に何かスッキリしない一面を感じてしまう。「人間的であるかどうか」ということである。無論、「とかげのしっ

ぽ＝元通り」という事に、失われた者の本当の願いを痛いぐらいに感ずる事はできる。神の領域だとしてもそこを目指すという事は医療者としての王道である事に反論の余地はない。自分のアイデンティティーにかかわる問題としても素通りはできないのである。

振り返り、リハビリテーション医療を思う。現状では病気や外傷によって身体的あるいは精神的に生じた障害に対して、残された能力を最大限に回復させ、また新たな能力を開発し、自立性を向上させ、積極的な生活への復帰を実現するために行われる“一連の働きかけ”をリハビリテーション医療と言う。つまり、機能回復に特化した考え方ではないし、治療そのものを意味するものでもない。その過程においてはその人間の人生、生き方へも影響を与える行為となる。今日できなかった事が明日はできるかもしれない、明日はできる様になろうとする個々の努力や希望が機能の損なわれた者においても日々正常な人間の営みを可能にする行為である。そこには単に与える者＝医療者と、享受する者＝患者

の単一的な医療関係では成り立たない事象が存在する。極端に言えば、治すのは自分である。だからその一連の行為は貴重であり尊いのである。重度の認知症を有する患者の機能回復がそうでない者と比べて思わしくないのは、意識下に自分で治すという行為が行われ難いからであるのも周知の通りである。失われた者が自分の人生と向き合う局面において、どう考え行動するかは治療効果に大きく影響を与えるのである。脳卒中患者に限局しても、人間ほど中枢神経系が高度に複雑に発達した生物はいない。したがって、その複雑さ故に回復は単純とはいかないのも宿命である。機能訓練により未使用の脳細胞を刺激し、神経回路を賦活させ、中枢神経系の再構築を期待する行為は、その過程においてやはり人間的でありうる。移植再生させるという神の領域を伺うものではないだろう。再獲得あるいは開拓された能力は、その葛藤を含み新たな人生の支えとなるであろう。そういう一面からもリハビリテーション医療の未来は決して暗いものではないと考えるのだが。

スタッフ紹介



理学療法士／吉田 宣明

■所属／リハビリテーション科
■好きな言葉／ギリギリセーフ
■自己紹介／寒くなると腰部痛の訴えが強くなりますが、最近購入した腰サポーター装着し、痛み自制内で業務を行っています。



作業療法士／長岡 辰弥

■所属／リハビリテーション科
■好きな言葉／マイペース
■自己紹介／作業療法士3年目です。頑張っていますので、よろしくお願いします。



看護師／藤田 志保

■所属／2A病棟
■好きな言葉／一期一会
■自己紹介／6月から御野場病院のスタッフとして働いています。生まれは横手市です。優しいスタッフに囲まれて毎日楽しく働いています。



事務職員／佐藤 亜希子

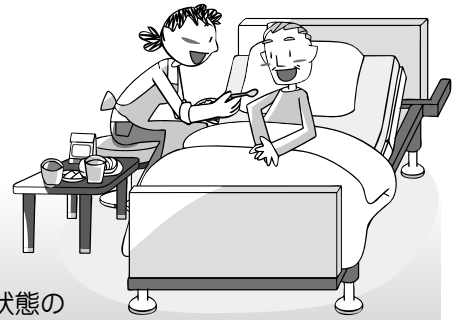
■所属／医事課
■好きな言葉／夢はでっかく根はふかく
■自己紹介／診療支援係という意識を大切にし、医療スタッフのサポートができるように頑張ります。趣味のマラソン、今年はフルマラソンにチャレンジします！

介護保険について聞きたい!!

～デイサービス編～

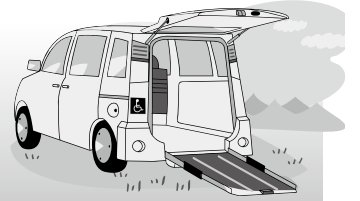
■デイサービスって何？

デイサービスとは、要支援・要介護の方を対象に、食事、入浴、レクリエーション、排泄、機能訓練を行う介護施設サービスのことをいいます。自宅に閉じこもりがちな要介護者がデイサービスを利用することで、心身状態の維持や向上が図れるほか、介護されるご家族の心身の負担軽減にもつながります。



■デイサービスのメリットを簡単にあげると…

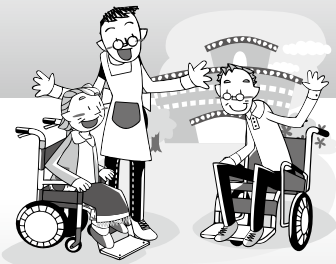
- ① 介護保険制度の保険給付の対象…利用費が原則一割負担です。
- ② 利用者の社会的な孤独感の解消…利用者の方はみんな楽しく過ごされています。
- ③ ご家族の介護疲れの解消…デイサービスに行っている時は、ご家族も自由時間！
- ④ 送迎車を出しているところがほとんど…送り迎えの心配がいらない。



■デイサービスの対象者及び適用資格

65歳以上または40歳～64歳までの医療保険加入者で要支援・要介護認定を受けている在宅の方であれば、原則として一割負担で利用できます。

尚、介護保険はお住まいの近くの市役所、市民センターなどで申請できます。
(居宅介護支援事業所でケアマネージャーに依頼することも可能です。)



■デイサービスの費用

デイサービスの費用は、要介護度別の一割負担で利用が可能です。

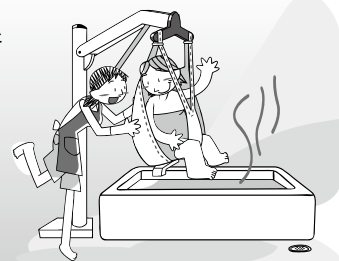
また、利用費以外には食費、入浴費、個別機能訓練費等が必要となります。

施設や介護度によって異なりますが、通う日数も自分で決めることができ、一日千円弱から数千円で利用が可能です。

施設や介護度によって費用が異なりますので、ご利用の際は地域包括支援センターや居宅介護支援事業所のケアマネージャーさんとよくご相談されることをお勧めします。

■御野場病院デイサービスセンターの特徴

- 御自宅への送迎を致します。(お体の状態に合わせた送迎車をご用意します。)
- 利用者様のお体の状態及びご希望を伺いながら専門スタッフの指導もと機能訓練を行います。
- 看護師による健康チェックを行います。(近くに御野場病院があるので安心です。)
- それぞれ独立した浴槽で入浴していただきます。介助が必要な方はお手伝いいたします。
- レクリエーション、行事も豊富で楽しみが沢山あります。
- 管理栄養士がカロリー計算した昼食とおやつを召し上がっていただきます。



すまいる保育園

職員の皆さんが安心して働き続ける事ができる子育て支援を理念に、すまいる保育園では子供の主体性と個性を尊重した保育を目指しています。

毎日、笑顔で楽しい保育園生活を送っています。皆さんも是非、見学においで下さい。



8月1日 真夏の晴天の中、保育園がオープンしました。

どんどんお子様も増え、11月には9名になりました。



絵本を読んだり？！
・・・見たり



楽しい行事も・・・



理事長と一緒に・・・



おまごとしたり・・・

季節の行事

9月……園外保育	12月……クリスマス会
10月……合同大運動会	1月……もちつき
りんご狩り	2月……節分
11月……保育参加	3月……ひな祭り
個人面談	卒園式

年間行事

☆内科検診…年2回実施
☆歯科検診…年1回実施
☆誕生会…月1回実施
☆避難訓練…月1回実施
(合同避難訓練は、 年2回実施)

敬老会

平成23年9月14日に御野場病院敬老会が開催されました。敬老会の出し物は、桜雅会さんによる踊りとマジック、民謡同好会・音友会さんによる民謡と尺八の演奏、フィレフアアロハラニフラスクールさんによるフラダンス、3階病棟職員によるヤートセとカラオケでした。歌あり、踊りあり、マジックあり、たくさんのボランティアの皆さんに支えられて、今年も楽しいひと時を過ごすことができました。



回復期リハビリテーション病棟紹介 ～看護次長の立場から～

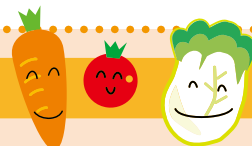
看護次長 鈴木富貴子

「リハビリテーション」という言葉はよく耳にするとと思いますが、この「回復期リハビリテーション病棟」（以下、回復期リハ病棟）でのリハビリテーションは、病気や怪我で「急性期病院」での治療を終了した方が早期に「日常生活動作の向上」「社会復帰を目的としたリハビリ」を集中的に行う病棟です。当院では、平成18年に回復期リハ病棟(32床)を立ち上げ、現在はベッド数も41床と増えています。



回復期リハ病棟では患者さんが在宅へ帰られた時を見据えて、ベッドからの起き上がり、座り、食事、トイレでの排泄、着替えや歩行ができるように援助するため、医師、看護師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、介護士、社会復帰・退院の調整等のための社会福祉士など多職種が共に働いています。リハビリは訓練室で行われるだけでなく病棟での生活、洗面やトイレでの排泄、入浴など日常生活の場での行動すべてがリハビリに繋がっていきます。私たちスタッフはそのすべてに関わりサポートしております。そして患者さんやご家族に「この病院に来てよかった。」と言ってもらえるようこれからも親切、丁寧なケア・リハビリの提供を心掛けてまいります。

栄養科より



当院では、毎月第4木曜日に『夕食会』という名目で、季節に見合った食材を使い行事食を実施しております。

普段の食事以上に舌だけではなく、「目」でも食事を楽しんでいただけるように盛り付けにも重点を置き、華やかになるように工夫しています。

メッセージカードを食事に添えて、患者さんにお届けしておりますが、その際に患者さんからのコメントを記入していただく欄を設けており、直筆のお手紙も夕食会の度に多数いただき、私たちの力の源になっております。

食事を通して、患者さんと心を通わせることのできる夕食会。これからも、患者さんからの温かいお言葉を励みに、食事を提供していきたいと思っております。

※今回は誌面の関係上、きざまないお食事の方の献立紹介となります。

11月の献立

- 押し寿司・ミニいなり寿司
- 野菜の肉巻き揚げ/レタス・トマト
- 煮物 ●小倉白玉 ●がり



編集後記



新年明けましておめでとうございます。皆様いかがお過ごしでしょうか。昨年を振り返りますと、未曾有の出来事の連続でした。海を愛し、共に生活されていた方々の大勢が犠牲になりました。私は、今回ばかりは神様のミステイクだと思いたい。誰も、何も悪くないのですから。どうか、皆がやさしさをなくさないように、心をこめて。(T・T)